日本女性会議（男女共同参画）２０１５　倉敷

「参加報告書」

大会プログラム PROGRAM

大会日程

月日	時間	内容	場所
1日目 10月9日(金)	11:30～13:00	受　付	倉敷市民会館等※
	13:00～13:30	アトラクション	
	13:30～13:50	開会式	
	13:50～14:20	基調報告	
	14:40～16:10	記念講演	
	17:00～18:30	交流会	倉敷アイビースクエア
2日目 10月10日(土)	9:00～9:30	受　付	各会場
	9:30～11:30	分科会	
	11:30～13:00	昼食・アトラクション	倉敷市民会館等※
	13:00～13:30	特別報告	
	13:30～14:15	分科会報告	
	14:30～16:00	記念シンポジウム	
	16:00～16:30	閉会式	

江別市男女共同参画推進連絡協議会　　松本　景子

移動日を含めまして、前日の１０月８日、新千歳発午前９時３０分の飛行機で北海道を後にしました。聞くところによりますと、その１時間後位に北海道は大変な嵐になったようでしたが、私たちは雨１つあたらず出かけられたことに、「ついてるね！」の一言でした。

羽田で乗り継ぎ、１３時５０分岡山空港に着きました。空港でまず、目に入ったのは、ピンク地に白い文字で「日本女性会議２０１５倉敷」と書かれた大きな看板でした。まち中のあちこちにも同じような看板が掲げられており、歓迎されていることをうれしく思いました。

倉敷市というのは、中国地方の岡山県にあり、人口４８万人位、温暖な気候で雪も降らず、台風や地震など自然災害も少ないため、全国の中でも安全な都市と言われています。

特に白壁の建物や柳並木が美しい美観地区には、両側の道路の真ん中に倉敷川が流れ、倉敷川舟流しといって、小舟が往来しています。凝縮されたこの一角には、古くからの町家が立ち並び、特産のきびだんごや、土産物、雑貨などの商店が連なっています。

私たちが着いた日も暖かく、私はＴシャツ１枚でも暑かったのですが、当地の人達は、セーターやカーディガンをはおり、四季それぞれを楽しみ、ゆったりはんなり過ごされているように見受けられました。

[１日目　１０月９日（金）]

翌日９日、１１時３０分から１３時の受付で、メーン会場の市民会館に足を運びました。

倉敷駅から市民会館まで無料のシャトルバスが１５分間隔で運行していましたが、私たちの泊まっているホテルから歩いて１５分位でしたので、のんびり出かけました。

道路脇など看板と同じピンクのＴシャツを着た実行委員会ボランティアの方々総勢６７０人が、出迎えてくれました。会場に入る直前に目の前の小柄な女性が「沖縄から来ました。」と声を上げていらっしゃったので、私たちも負けず、「北海道から来ました。」というと、「まぁまぁ遠いところ…北海道は特に嵐が大変だったでしょう。」と尚一層の拍手を頂きました。

それにすっかり気を良くした私たちは、あちこちで「北海道から来ました。」を連発しました。はたまたコンビニでも、「北海道から来ました。」と北海道をＰＲしました。

■開会式・アトラクション　　倉敷市民会館　１３：００～１３：５０

あいさつ　　大会長　倉敷市長　伊東　香織

実行委員会委員長　上岡　美保子

会場には、２，０００人を超す人たちであふれ返り、満席の状態でした。今大会の最高年齢は、１００歳とお聞きしました。開演中は、写真撮影は禁止とのことでした。また、倉敷の新聞社から号外も出ておりました。

今大会の大会長、倉敷市の伊藤香織市長は東京大学卒業、平成２０年４月当時全国で最年少の女性市長として当選され、現在に至っております。また、倉敷は、ジーンズ発祥の地でもあることから、デニムの上着スラックス姿という４０代の市長さんです。そして、「子育てするなら倉敷でと言われるまち」を掲げられ、歓迎のあいさつをされました。実行委員長の上岡美保子さんは、「昨年１０月札幌で私たち実行委員一同熱い思いのこもったバトンを受け取りました。ご参加下さった皆さまに倉敷に来て良かったと思っていただける会議となるよう、一生懸命準備を進めて、今日を迎えることできました。」と話されました。

«10 月９日（金）山陽新聞号外»

白壁の町 2000 人集う

男女共同参画テーマに催し 武内さん（NHKアナ）らが講演

日本女性会議2015倉敷

閉幕した日本女性会議2015倉敷＝倉敷市民会館

山陽新聞 さん太号外

（山陽新聞社提供）

アトラクションの倉敷太鼓は若い力とベテランの絶妙なバランスで太鼓の音が会場内に響きわたりました。

■基調報告　　倉敷市民会館　１３：５０～１４：２０

報告者　　内閣府大臣官房審議官　　池永　肇恵

基調報告は、資料には「内閣府男女共同参画局長　武川恵子」と書いてありましたが、この度の内閣改造により池永肇恵さんが「女性が輝く社会を目指して」と題して、次のように報告されました。

各国における男女格差の指数は、１４２ヶ国中１０４位とまだまだ低い位置にあります。日本の国会議員の占める女性の割合は、上昇傾向にあるものの、先進諸外国との格差は大

きく日本は１５６位、また働いている割合には女性の管理職が少ないのが現状です。

２０１４年９月２５日第６９回国連総会における安倍内閣総理大臣は、一般討論演説の中で、日本は今女性の参加を一気に増やそうと述べ、政府、民間あげて努力を始めました。

子育てや介護と仕事の両立が可能となる環境を整備しなくてはいけません。

また、２０１５年８月２８日女性が輝く社会に向けた国際シンポジウムでの安倍内閣総理大臣は、「なぜ女性の活躍を推進するのか？を問う時代は終わりました。今はいかに実現するかを議論することです。」と、述べられています。

池永さんは、女性の活躍は女性だけでなく日本社会の在り方を変える…とも、述べられました。

■記念講演　　倉敷市民会館　１４：４０～１６：１０

・魂の言葉を伝える～テレビの裏側・放送の現場から～　　武内　陶子

・パッとしない私が、「これじゃ終われない」と思ったときのこと　　上田　紀行

・武内　陶子　＆　上田　紀行　の夫妻トーク

NHKアナウンサー
武内 陶子

次は、倉敷出身のＮＨＫアナウンサー武内陶子さんと、ご主人の上田紀行さんの記念講演でした。

武内さんには、働く女性として母として、悩み、葛藤する日々を通して得たものや、言葉を通して何が伝えられるのかなど、自分らしくイキイキと輝くヒントをお話しいただきました。

彼女は、「ＮＨＫニュースおはよう日本」を担当後、２００３年の「第５４回ＮＨＫ紅白歌合戦」の総合司会や、「スタジオパークからこんにちは」など数々の番組を担当し、現在は「うまいっ！」「１００分ｄｅ名著」の司会や、「ＳＯＮＧＳ」のナレーションなどを担当されています。

文化人類学者、医学博士、東京工業大学リベラルアーツセンター教授
上田 紀行

ＮＨＫ紅白歌合戦の総合司会をされた時は、自分にできるだろうか、断ろうか、誰にも相談できずに悩み、気分を落ち着かせようと、気が付くと、足は道後温泉に向かっていたそうです。そこには、温泉の主とでもいう湯婆の方がいて、武内さんが、よほど暗い顔をしていたのか、「どうしたと？背中流してあげると。」と言われたそうです。武内さんが、「いえいえ、そんな見ず知らずの方に…」と言うと、「いいから背中向けんしゃい！よーし、行け！一歩踏み出せるよ！」と背中を押していただき、決心することができたそうです。なお、このことを、ご主人の上田さんに話すと、「それは人間ではなかったのではないの？」と言われたそうです。

現在も朝２時起きで５時には出社、夕方も打ち合わせなどご多忙な毎日ですが、家族周りの方々に支えられ、感謝の気持ちを忘れずに働かれています。

武内さんのご主人である上田紀行さんは、「人間は、いくつになってもチャレンジできるし、人生変えられる！」と題して、不安だらけの現代社会を生き抜く知恵をお話しされました。

（上田さんは、東京工業大学教授をされており、８６年よりスリランカで「悪魔払い」のフィールドワーク調査を行い、「癒しブーム」を巻き起こされています。）

以下の調査結果を踏まえ、次のようにお話しされました。

①私は先生に優秀だと認められている。	韓国４０％、中国６５％、アメリカ８２％ 日本１７％
②親は私が優秀だと思っている	日本３４％、アメリカ９０％
③自分が優秀だと思っている	日本１５％
④私は価値のある人間だと思っている	日本３４％

「現代は生きる意味の不況で、自分が解らなくなっている。私は、自分に満足している…ということが大切です。日本は偏差値でしか価値がないと思っていることが多いが、一つの価値で決めてはいけない。大切なのは、自分に自信を持つこと。それには人生を楽しみ、笑い、思いやりを持ち、魅力のある人になることですが、苦しむことも重要。人間はいくつになってもチャレンジできるし、人生は変えられる。」

また、有名な武内陶子さんを一生懸命支えていらっしゃるそうです。

武内さんと上田さんのお二人には、現在小学生のお姉ちゃんと五歳の双子の女の子の計三人のお子さんがいらっしゃいます。会場の前列に三人のお子さんがいらしていて、時々笑顔で手を振っていらっしゃったのが印象的でした。

[２日目　１０月１０日（土）]

■第１分科会　歴史「女性史」　　倉敷市民会館　９：３０～１１：３０

「歴史が築くわたしの未来」

第１部　時代を映す歌

村上　彩子[ソプラノ歌手]　　大石　邦子[ピアノ]

第２部　パネルディスカッション「過去・現在・未来を語る」

コーディネーター　　沢山　美香子[岡山大学大学院　客員研究員]

パネリスト　　井久保　伊登子[医師・エッセイスト]

大原　あかね[(公財)大原美術館　専務理事]

滝村　雅晴[パパ料理研究家]

第１部は、大正時代から現在までの女性のあゆみを、大石さんのピアノの演奏で、倉敷市在住のソプラノ歌手、村上さんの歌とともに振り返りました。

村上さんは、働きながら藝大を七回受験し、挫折を乗り越えた経験から「命の大切さ」や、戦争の証言を織り交ぜた「平

和コンサート」を全国で５５０回開催しています。また、チャリティーコンサートの収益でカンボジアに井戸５本を支援しており、歌で平和の尊さを伝えています。

ここで歌われたのは、下記のとおりです。

歌名	時代背景等
宵待草	大正時代／女性であることを制限されていた時代／朝から晩まで家族の世話／食事も一緒にとれない不平等な時代「自由に生きたい」／東洋のジャンヌ・ダルクと称された福田秀子は、岡山県の太陽
ふるさと	働く女性が多くなり、この時代、女工、集団就職が増えたが、環境が十分ではなく、日々生活に追われていた／倉敷さつき会が先頭となり、大正１４年保育園設立／昭和１６年に太平洋戦争開戦、昭和２０年に終わりを告げる／女性への選挙権付与
青い山脈	昭和中期から落ち着きを取り戻す／女性団体が誕生し、一気に盛り上がりを見せる
約束	女性は力強くなり、昭和５０年に国際婦人年／昭和５４年女子差別撤退運動／北京で世界女性会議開催／意識変革／平成１２年の男女共同参画施行により勇気づけられる
花は咲く	これからは、男だから女だからではなく、個性を活かして過ごせる社会へ（※会場の人たち全員で合唱）

次の①～④の、時代を創った岡山県出身の女性が紹介されました。

①福田　英子（１８６５～１９２７）

明治１５年婦人解放を目指し、「岡山女子懇親会」を設立。母と協力して興した。また、勤労婦人、貧困家庭の子女に進歩的教育を行った。

朝鮮改革運動に参加した英子は、明治１８年大阪事件で逮捕・投獄、しかし、憲法発布（１８８９年）で大赦帰国。その生きざまは、「東洋のジャンヌ・ダルク」と称された。

明治４０年社会主義婦人雑誌「世界婦人」を発行。「治安維持法改正運動」「足尾銅山鉱毒事件」で、官憲に対して、意欲的に立ち向かった。

②近藤　鶴代（１９０１～１９７０）

昭和２年、岡山高等女子教師として２２年間、教壇に立つ。

昭和２１年、婦人参政権獲得後の戦後最初の総選挙で、岡山２区で３位の成績で当選。その後自由民主党に入党。衆議院４期７年、参議院２期１２年務めた。

昭和３７年国務大臣、科学技術庁長官に就任。抜群の行動力で、教育・文化・行政に尽力。

③永瀬　清子（１９０６～１９９５）

愛知県立第一高等女学校時代、佐藤惣之助に師事。昭和５年、処女詩集「グレンデルの母親」詩誌「黄薔薇」・同人誌「女人随筆」でデビュー。岡山県文化賞・山陽新聞社賞・ミセス現代誌女流賞・「あけがたにくる人よ」で地球賞を受賞。

④上代　淑（１８７１～１９５９）

明治２２年、山陽学園の前身、山陽英和女学校に着任。その後、アメリカの女子教育を学ぶため、マウント・ホリヨーク大学に留学。帰国後は、再び教壇に立ち、日本女子教育の礎を築いた。「愛と奉仕と感謝」という教育理念のもと山陽高等女学校の校長を５１年間務めた。１９５８年岡山市名誉市民。

最近の日本の動きとして、次のとおりとなっています。

・昭和５５年　労働省が男女平等問題専門会議を行う。
・昭和５９年　第１回日本女性会議（名古屋で）昭和６１年男女雇用機会均等法施行
・平成１１年　男女共同参画社会基本法施行
・平成１３年　第１回男女共同参画週間
・平成２１年　政府として初めて厚生労働省が貧困率を公表
（２００７年の調査で相対的貧困率は１５．７％　子どもの相対的貧困率は、１４．２％となっています。）
・平成２７年　女性活躍推進法案が可決

第２部は、パネルディスカッション「過去・現在・未来を語る」と題し、コーディネーター沢山さん（岡山大学大学院客員、研究員）の素晴らしい司会のもと、３人のパネリストのお話しを伺いました。

○パネリスト

・井久保　伊登子さん（医師　エッセイスト）

熊本大学卒業、中学校教師に赴任、退職、結婚、３児出産。その後、岡山大学医学部入学。卒業後、病院に勤務しましたが、胃がんが見つかったため胃全摘手術後、再度病院勤務。退職後、自由に書いて考えて行動する生活をモットーとされています。つまらない人生はないと語り、現在市民講座や文章教室の講師などをされています。

・大原　あかねさん（大原美術館　専務理事　くらしき作陽大学　特任准教授）

大原美術館の専務理事として、大原美術館の運営、企画に携わる傍ら、地元大学生や経済人など次世代を担うまちづくりリーダーの育成など様々な活動に参画している。自身のひいおばあさんである倉敷さつき会の創設者大原すえ子さんの意思を継ぎ、保育事業の運営にも関わる他、困難にも屈せず歩み続けた倉敷の女性たちの活動にスポットを当て、後世に残す活動を積極的に展開しています。

・滝村　雅晴さん（エプロン姿で登場）

日本で唯一のパパ料理研究家として、料理教室やセミナーを開催するほか、ＮＨＫきょうの料理などにも出演。ママや子どもたちのために料理するパパや親子で料理するファミリーを一人でも多く増やすため、活動を行っています。

滝村さんは、最初は料理には全く興味がなかったそうですが、１２年前に長女が生まれてから意識が変わったそうです。パパ料理とは、家族のために困っている人のために思いやりを持って作る料理です。

一般会場の方から「このような話は、是非男性にもしていただきたい。」との声があり、それに対しては、「お話は講演などでしていますが、押しつけてはいけない、目覚めさせるには時間が必要です。」とのことでした。

私も男性の姿がちらほらしかなく、残念に思いましたが、女性会議と名のつく以上、男性は入り込めない気がします。日本女性会議は、１回目は名古屋で始まり、今年は３２回目を迎えました。その間の歴史を振り返れば、致し方ないのかもしれません。

今後は、男だから女だからというのではなく、自然体に個性を活かした生活が送れるようになればと思います。

私は、会場で何人もの方たちと名刺交換も致しました。拝見したところ、滋賀県商工会議所労働部女性活躍担当という方や、小山市役所女性史研究会小山支部の方などとあり、皆さん本当に熱く語ってくれました。私は唯一、「北海道から来ました」があるだけで、今後、自分でできることを発信していかなければと、痛感しました。

体いっぱい感動を受け、思いをたくさん持って帰って来ました。

参加させていただいたこと本当にありがとうございました。